

令和4年度 学校評価

八代白百合学園高等学校

学校教育目標	キリスト教精神に根ざした価値観を養い、地域社会・国際社会に奉仕・貢献できる女性の育成に取り組む。
	<p>～かけがいのないいのちを生きる存在であることを意識し、自らの可能性の実現に向けて挑戦しよう～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と同じように他者のいのちも大切にしよう ・互いに学びあうことを通して、仲間とつながる喜びを体感しよう ・身近な集団や地域社会・国際社会の中で、自分ができることを見つけ、心から喜んで行動しよう
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒各々に応じた学力向上を図り、進学実績を向上させる（生徒の可能性を見極め一人ひとりが進路目標を達成できるようサポート） ・アウトプット力の養成（思考力・判断力・表現力を培う） ・部活動・生徒会活動の振興、社会性とリーダーシップの養成（地域と連携した活動） ・特別支援教育の充実（建学の精神を基盤にした、特別支援教育・共生教育の充実）

総括表

評価項目		評価の観点・目標	具体的な方策	評価	成果と課題
大項目	小項目				
学校経営	特色ある学校づくり	建学の精神の実践（カトリック精神に基づく教育の推進）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 祈りを通して自己と向き合う ・ 行事を通してカトリック精神を学び成長の糧とする ・ 宗教教育を通して自己肯定感の醸成を目指す。 	A	朝礼時の祈りを丁寧に落ち着いた環境の中で行えるよう各担任で指導に当たっており、心静かに自己と向き合う時間を大切にすることができている。
		姉妹校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各姉妹校へのビデオレターでの交流 ・ オンラインでの交流会の実施 	B	学校法人全体でオンラインによる各学園の紹介や発表を行うことで白百合学園ファミリーとしての帰属意識の醸成を図ることができた。来年度以降も継続されるので今回の反省を生かしながら継続したい。
		コースの特色を生かした教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導に取り組む ・ コース再編による進路希望に応じた指導体制の充実 	A	コース編成とカリキュラムの再編成により、生徒一人ひとりそれぞれの進路実現に対してサポートできる体制を整えている。各学年ともに進級、進学、就職等に向けての準備でもあるという考えのもと教員間の情報共有のさらなる強化を図る。
	開かれた学校づくり	情報公開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校HPの充実及び適切な情報発信 	A	学園HPは適切な頻度で更新されており、学校行事等の更新の迅速化にも努めている。提供する情報の拡充を図り、本校の特色についてPRに努める。
		家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者会との連携を充実させる ・ 保護者への情報提供 	B	各種通知が確実に保護者へ提供できるよう、メール配信システムを活用して積極的に情報を発信し細やかな現状の周知に努めた。
		地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12校園連絡会で地域学校との情報交換の充実 ・ 地域町内会との連携 	B	各部活動による小中学生に向けた練習会を実施。町内会及び地区学校連絡会との連携しての花いっぱい事業や地域の小中学生へ見守り隊等の活動を行っている。

評価項目		評価の観点・目標	具体的な方策	評価	成果と課題
大項目	小項目				
学習指導	基礎学力の向上	個々の生徒の実態の把握による対応	<ul style="list-style-type: none"> 学力診断により生徒それぞれに対応した指導を行う 学び直しを実施し、基礎学力の定着を図る 	A	生徒のデータをそれぞれ点検・蓄積・共有することで生徒一人ひとりに対応した学習指導を目指し、主体的な学習ができるよう指導する。
	学習習慣の確立	学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> 自律学習への構えをつくる 	B	進路実現のための働きかけにより、日々の学習での学力向上を意識させ、自ら進んで学習ができるよう勧めている。
	ICT教育の充実	授業でのIT活用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した授業の充実 	C	今年度1年生より学年進行で一人一台の端末導入を実施する。ICT支援員を活用し教員の研鑽に力を入れる。「metamoji」等のアプリも効果的に利用する。
	教員の指導力向上	教科指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすく生徒を引き付ける魅力ある授業の実践 	B	生徒が望む進路実現のための学びや学習への取り組みについて個々の教員が授業力の向上について常に学ぶ意識を持つべく環境整備に努めたい。
進路指導	進路目標実現	進路意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスの実施 各学年での組織的な指導 面談の充実 進路実現のための具体的な対応（模試、進路指導等） 	A	1年生については、進級に際し進路実現へ向けたコース選択となるよう、ガイダンスや保護者説明会、面談を実施。2年生については3年時のコース選択に向けての調整を生徒個々の情報を共有しながら組織的に行った。小論指導も個別に対応しており論理的思考力や表現力の養成に努めた。
		インターンシップの活性化	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップマッチングの強化と内容の充実 	B	コロナ禍により受け入れ企業の確保が困難ため各職種の企業の協力によりオンラインではあるが実施することができた。生徒の進路意識の動機付けが強化できるよう規制緩和時に向けて準備する。
生徒指導	生活指導	品格ある白百合生としてのマナー指導	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、服装、時間の厳守等ルールとマナーが身につくよう整容指導の徹底 	A	礼儀と基本的な生活習慣を身に付けさせることで、明るい学校雰囲気づくりに努めた。また、遅刻防止や身だしなみの意識向上に向け通学時の昇降口での教員と生徒当番による挨拶を通じて活動している。
		交通安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 通学時の街頭指導を行う 通学時のスマートフォンやイヤホン装着について使用指導の徹底 	A	登校時に事故の危険性があると懸念される箇所での街頭指導を定期的に行っている。また、事故回避のため学校周辺の自転車登校経路を設定し順守することで朝の混雑時における地域の交通についても配慮し、交通安全に努めた。
	安全安心な環境づくり	いじめの未然防止、早期発見、早期対応	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの実施 	A	SNS等でのトラブル防止のためHRや集会等で注意喚起に努めた。学年間の連携により問題行動等に対し効果的に対処を行える指導体制を整える。
	特別支援教育	特別支援体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの有効活用及び関係機関との連携強化 個別的教育指導・支援計画の策定 ケース会議の充実 保護者との連携強化 	A	スクールカウンセラー及びソーシャルワーカーを最大限活用している。教員間の情報の共有を強化させ指導計画、支援計画を充実させ、生徒個々への支援に対応している。またケース会議や校内委員会についても教員だけではなく保護者とも連携しながら実施している。就労支援については、ハローワークとも連携し実習等を通じて就職につなげる支援を行っている。

評価項目		評価の観点・目標	具体的な方策	評価	成果と課題
大項目	小項目				
特別活動	国際交流の推進	韓国姉妹校との交流 その他の国際交流	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の交流を展開する 「総合的な探究」での韓国語講座の実施 	B	昨年に引き続きコロナ禍により韓国姉妹校とはオンラインでの交流となった。国際理解に対して機会の提供について充実を図りたい。
	ボランティア活動の推進	奉仕活動への理解を深める 心豊かな生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動への積極参加を促す 各種支援施設との交流 校内献金活動を通して他者への慈愛の精神の醸成 	B	地域イベントでの清掃活動等への参加や、周辺地域への清掃活動を行った。コロナ禍により各種施設との交流は実現できないが、来年度に向けて調整を図りたい。
	インターアクトクラブ活動の推進	地域奉仕プロジェクトへの参加	<ul style="list-style-type: none"> 地域貢献の意義を学ぶ 	A	生徒会が中心となり担当地域ロータリークラブの協力により各種体験活動や奉仕活動に取り組むことが出来ている。
	部活動	部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 全国レベルの部活動への活動環境整備 部活動を通じての地域貢献活動 	A	各種大会で活躍することが出来ている。文化系部活動による地域貢献活動はコロナ禍での制限はあるものの生徒の心身の成長にもつながっている。

A 達成できた、B 概ね達成できた、C あまり達成できなかった、D 達成できなかった

次年度への課題および改善点

コース再編完成年度となる次年度は、個々の進路実現に向け教員間の情報共有による指導体制の充実を意識しながらコースそれぞれの独自の取り組みが成果となるようさらなる努力をしたい。このコース再編が、より生徒のニーズに応えられるものとなるようPDCAサイクルにより常にアップデートを行う。

ICT教育については、ITを活用した授業の充実に対応できるよう各種研修や自己研鑽により、教員のスキルアップを図りたい。

新型コロナウイルスも落ち着きを見せつつあるが、単にコロナ前に戻すのではなく、新たな学びや学校のあり方についても考える必要がある。